

話すこと 2

表現が出てこない(2)

[全] … 学級全体に対する指導や支援

[個] … 個人に対する指導や支援

表現と意味や使う場面が結び付いていない場合

①話題や場面をつかませてからやり取りを聞かせる。[全]

教員とALTのやり取りを見せて新出の表現を導入する際に、既習の表現を使ったやり取りから始めたり、ピクチャーカードやジェスチャーなどを活用したりして話題は何か、どのような場面かが伝わるようにする。その後どのような会話をしていたのかを確認し、英語ではどう言うのかを示して、表現と使う場面を結び付ける。

【例】“When is your birthday?”の導入

ALT: Hello.

教員: You look happy. What is this?

ALT: This is the birthday card. It's from my friend.

教員: Oh, it's nice. (児童に向かって)ALTの先生が持っているのは何だった?

児童: バースデーカード。

教員: When is your birthday?

ALT: My birthday is August 3rd.

教員: 先生は何を質問したのかな?

児童: 誕生日を聞いた。

教員: そうだね。When is your birthday?と言えば誕生日を質問できるね。

②話す必然性のある場面を設定し、やり取りする中で表現を使わせる。[全]

表現を機械的に復唱させる練習では、表現を使おうとする児童の意欲を減退させる恐れがある。身近で簡単なことについて、自分のことを話す場面を設定し、伝えるために表現を使う中で練習をさせるようにする。

【例】“I ate ~.”の表現の定着のために、「夏休みに食べた物を尋ねて、おいしそうな物を食べた友達を見付けよう」という課題を設定する

教員 : Walk around the classroom. Talk to your friends. おいしそうな物を食べた友達を見付けましょう。

ペアを作って

児童1 : Hello. What did you eat?

児童2 : I ate ice cream. What did you eat?

児童1 : I ate watermelon. Thank you.

新たなペアを作って

児童1 : Hello. What did you eat?

児童3 : I ate pizza. It's delicious. What did you eat?

児童1 : I ate watermelon. Thank you.

⋮

活動後に

教員 : おいしそうな物を食べた友達はいましたか。

児童1 : 児童3さんです。ピザを食べておいしかったそうです。